

解 答

- 問1 ④ 問2 上総
問3 ① 貝塚 ② 源頼朝 ③ 生糸 ④ 歌川広重（安藤広重）
問4 (1) 塩 (2) 北条
問5 江戸城を守る堀の役割。 洪水時の排水路の役割。
問6 房総半島を回ると輸送距離が長くなるから。
潮流の向きが変わることで、海難事故が起こりやすいから。
問7 き 問8 埋め立て地の造成
問9 クレーンを使って、短時間で積みかえができるから。
大きさが統一されているため、積み重ねて保管しやすいから。
問10 (1) 物流の中心が欧米からアジアに移ったこと。
取りあつかい量が飛躍的に増えたこと。
(2) 港の使用料が安いプサンなどの方が、ハブ港湾の役割を果たしているから。
東京や横浜へ陸路で運ぶより、日本海を通して海上輸送の方が便利だから。
問11 政治の中心地である江戸・東京の経済力を高め、大都市として発展することが、自然保護よりも常に優先されてきたから。
問12 (1) (例) 高速道路の建設を中心とした東京湾岸全体の交通網を整えることで、交通渋滞を緩和するとともに、物流を確保しようとした。
(2) (例1) 自然との共生を重視している現在、新島を造成しない方がいいと思うのは、東京湾の自然や環境を破壊することにつながるから。
(例2) 環状運河によって水上輸送を整備することには、深刻な交通渋滞を解消し、大気汚染などの公害も減らせるという利点があるから。

解 説

- 問1 神奈川県と東京都の境となっているのが多摩川（あ）で、東京都と千葉県の間となっているのが江戸川（え）です。
問2 旧国名のうち、「上・下」「前・中・後」「近・遠」のつく国名は、都が基準となっていました。
問4 (1) 東京湾の遠浅な海は、戦国時代から明治時代にかけて、塩田地帯でした。戦国時代、北条氏に塩を年貢として納めていたところもありました。のちに、徳川家康がその地域を幕領として、塩業を保護、奨励した結果、東国一の塩の産地となりました。
問5 江戸城や江戸の町づくりのために、大量の物資を運ぶ必要があります。主として、この水運のために運河（堀）がつけられましたが、江戸城については防備、江戸の町全体については排水路の役割を果たしたと考えられています。このほか、火事の延焼を防ぐ役割を果たすことにもなりました。
問6 房総半島を回ると輸送距離が長くなるうえ、黒潮の流れにも逆行するので、時間もかかります。また、房総半島沿岸は、潮の流れが変わりやすく、海難事故が起こりやすい水域とされています。
問9 2つの写真からわかる利点以外にも、コンテナには内部の温度を自由に調節できるものがあるため、貨物を冷やしたり凍らせたりしたまま輸送することが可能です。
問10 (1) 表の港名に着目すると、上位の港が欧米や日本から中国・韓国などのアジア諸国に変わったことが読みとれます。また、コンテナの取りあつかい個数を見ると、急増していることがわかります。
(2) 新潟や金沢など日本海側にある都市からは、わざわざ東京・横浜へ陸路で運ぶより、日本海から直接プサンなどに水路で運ぶ方が便利です。また、プサンやジャンハイは、日本より港の使用料が安いので、世界各地と結ばれているハブ港湾としての役割が大きくなっています。
問12 (1) 1988年当時の状況をふまえて、解答を考えることが大切です。
(2) 実現した方がいいと思うもの・実現しない方がいいと思うもののいずれの解答も、環境に関する視点を含めるとよいでしょう。